

## 懇談会の開催にあたって

林産試験場長 中川 祐四男



ただ今ご紹介いただきました中川でございます。本日は大規模木質構造懇談会を開催することで、ご案内差し上げましたところ、大勢の方がご出席いただきまして、たいへんありがとうございます。また、日ごろ林産試験場の業務につきましているところと協力いただいていることに対しまして、この席をお借りしてお礼申し上げます。

これまで大規模木質構造の建築物につきましては、農林水産省におきましてモデル木造施設建設事業の中で、道におきましては高等学校、あるいは公共施設などで建設を行ってきております。また、そのほか、市町村におきましてもいろいろな形で大規模な木質構造建築物が建てられてきているところですが、これらは展示物としてあるいは見本としての役割を担っておりますので、今後は民間において取り組んでいただく時期にきたのではないかと考えまして、こういう懇談会を持ったわけです。

この木質構造を進めるにあたりまして、最近、建築基準法が改正され、同法施行令も改正されてきております。これらについては追ってそれぞれの講演者が申し上げることになっております。私ども林産試験場におきましても構造、強度、設計、あるいはビームの接合技術といったものについて、これまで相当研究を行ってきておりまして、本日これらについてもご披露させていただきます。

また、塗装、防腐処理、防火処理、構造、接着

といった専門家も共に参っておりますので、いろいろな点から皆様のご質問などにもお答えすることができると思います。

さらに、木質構造研究所長の堀江様から帯広営林支局の建築事例を中心にお話しいただきますし、鹿島建設の播様から出雲もくもくドームについての建築事例をご紹介いただくことになっております。このお二人の方々には、たいへんご多忙のところ私どもの申し出を快くお受けいただきましたことに対しまして、厚くお礼申し上げます。

北海道にも最近いろいろな形で研究所を建設する企業、あるいはソフトウェアでありますとか、システム開発を行う企業などが進出しております。こうした頭脳集積型の建築物につきましては、木質構造はたいへん適しているのではないかと私は考えております。木材は環境面におきまして人に優しいとか、居住性に優れている、独特の美観やデザインを醸し出すことが可能であるといったようなたくさんの利点を備えております。建築基準法の改正など情勢の変化、木材の持つ特性といったものを背景といたしますと、大規模木質構造の建築というものも建設業界の方々にとって商売になる時期にさしかかっているのではないかと考える次第です。

そのようなことで今後、ゼネコンの方々も、あるいは建築設計の方々も大規模木質構造について、積極的に取り組んでいただくことをお願いいたしまして、たいへん簡単でございますが開会にあたりましてのごあいさつとさせていただきます。